

第三者評価に係る意見集約シート（修正版）

令和元年6月29日
第16回会議
資料 2

※各意見の区分について
「成果」・・・成果と言える点、評価できる点
「課題」・・・課題である点、改善すべき点
「要望」・・・上記以外の要望等

I 機能の達成状況

(1) 6つの機能

①拠点機能【3.6点（4点：6人、3点：4人）】

区分	項番	第三者評価シート等の意見	評価文案	
成果	ア	市民と団体がつながる機会を作りとてもよい関係である。	UMECO企画展や活動エリアの稼働率について目標値を達成しており、拠点としての周知が進んでいる。	
	イ	UMECO企画展では、同じ分野で活動する団体が展示スペースを共有し、団体同士がつながるきっかけの場となっている。		
	ウ	UMECO企画展、活動エリア管理については目標値に達した。		
	エ	企画展、活動エリアの稼働率とも目標値を上回るとともに、団体登録についてもおおむね目標値を達成するなど、拠点としての周知が進んでいると思われる。		
	オ	活動エリアの稼働率が目標値に達した。		
	カ	活動エリアの稼働率が上がったのは評価できる。		
	キ	会議室の稼働率がよい。		
課題	ク	UMECO企画展については、多様な主体の拠点となれるよう努め、またホワイエの積極的活用を図るべき。	UMECO企画展において、より幅広い主体が参加できるよう、ホワイエの積極的活用を図るとともに、アンケートボード等による来場者の満足度の把握やPRに努めていたきたい。	
	ケ	企画展について、ご意見箱などを設置したり、感想を書いてもらうノートなどを用意したりするなど、入場者の満足度を知ることも必要ではないか。企画展が市民活動のきっかけになるような展示にしてほしい。		
	コ	UMECO企画展は市民入場が少ないと思うので、PRをもっと考えるべき。（自治会活動に回覧要請など）		
	サ	UMECO企画展について、満足度を把握する方法を検討していただきたい。		
	シ	企画展示については団体が固定化傾向にある為、幅広い団体に利用してもらう等の工夫が必要。		
	ス	企画展については、きっかけづくりの場とするのであれば、より幅広い団体の発表の場とする必要がある。		
	セ	発表者の満足度は副次的な効果であり、本来の効果である来場者の満足度について、アンケートボード等を活用して把握することが必要と思われる。		
	ソ	ホワイエの利用度が多目的コーナーに比べて低く、活用されていない月もあるため、対応を検討していただきたい。		
	タ	団体が登録を更新しない理由を把握し、対策をとっていただきたい。		資料3 No. 1 登録団体数が減少している理由を分析し、 その増加策 や団体への効果的なサポート方法を検討する必要がある。
	チ	高齢化による団体数減少に対して、効果的な新規団体数確保等の活動が乏しい。		
ツ	団体の情報を相談・連絡できるシステムを作るべき。			

②相談・支援機能【3.5点（4点：5人、3点：5人）】

区分	項番	第三者評価シート等の意見	評価文案
成果	ア	イーパーツパソコン寄贈事業が目標値に達した。	指標の精査は必要と考えるが、各事業で目標値を達成できており、特に相談業務については多くの案件に対応できるよう努めていることがうかがえる。
	イ	イーパーツパソコンに係る実績があった。	
	ウ	パソコン寄贈事業については、寄贈団体数が目標値を上回ることができた。	
	エ	2つの事業とも目標値に達した。	
	オ	さまざまな相談に対応しており、UMECOが多くの市民に認知されていることがうかがえる。	
	カ	相談者を増やすことができた。	
	キ	相談への対応が誠意あり、親身。	
	ク	UMECOのスタッフが多くの相談に対応している様子が相談業務の報告書の中でわかる。	
課題	ケ	相談機能については、その内容が多岐に亘っているが、相手方のニーズに応じた回答に努めていることが伺える。	
	コ	パソコン寄贈事業は、登録団体への寄贈が前提となることから、目標値の設定には工夫を図ってほしい。	

課題	サ	事業報告書への記載について、相談業務とイーパーツパソコン寄贈事業の順を入れ替えたほうが「相談業務」をより主張できると思う。	相談機能のPR、記録のデータベース化、対応のマニュアル化を行い、誰もが気軽に相談しやすく、適切な情報を得ることができる窓口を目指していただきたい。	
	シ	相談窓口の雰囲気が何となく近寄りづらい感じがする。(暗い)		
	ス	相談機能のさらなる周知を行い、充実に努めていただきたい。		
	セ	記録のデータベース化や対応のマニュアル化により、職員の情報共有及び対応の均質化を図っていただきたい。		
	ソ	市民活動の相談内容をテーマごとにまとめ、傾向を把握し、対応の一律化を図ってほしい。		
	タ	相談が多岐にわたっているため、まとめ方に工夫が必要。カテゴリ別にする、つながった団体名を明記する、など。データベース化し、あとから職員誰でも検索可能とする。		
	チ	相談業務については、職員の負担軽減を図るため、傾向を分析し、ある程度趣旨が同じものについては回答をマニュアル化するなど、省力化に努める必要がある。		
	ツ	相談した内容を分野にわけて確認しておくべき。		資料3 No. 2 相談内容を分類・分析し、相談者のニーズを 把握することを通じて 、これを他事業に活用し、市民活動の活性化につなげていくべきである。
	テ	相談業務について、実績値をボランティア関係、法人化関係、団体運営などに類型化して傾向を把握し、他の事業展開に活かしていただきたい。		
	ト	相談の種別(活動者自身の相談「活動希望者からの相談」、「NPO・団体の運営についての相談」)や市民活動への援助の依頼などの分類、また、相談者の種別(個人・団体、自治会、福祉施設など)に分類して、報告をされたほうがUMECOのスタッフの方が取り組まれてきた相談がより見えやすくなると思う。		
	ナ	「相談対応フォーム」(紙ベース)を作成し、誰が第一窓口となっても必要最低限を聞き出せるような工夫があるとよい。		
	ニ	市民活動の活性化につながるよう意識して対応していただきたい。		
	ヌ	登録団体のニーズを掴み、新たな支援機能を開拓するような活動を実施して欲しい。		

③協働支援機能【3.1点(4点:2人、3点:7人、2点:1人)】

区分	項番	第三者評価シート等の意見	評価文案
成果	ア	市民活動団体と事業者との協働事業の参加団体数が増え、幅広い層に団体の周知を図ることができた。	資料3 No. 3, 4 事業者との協力関係を拡大・継続し、安定して事業を実施するとともに、新たに神奈川県との協力を得て大学を含めたつながりのきっかけを 創った ことは評価できる。
	イ	市民活動団体と事業者がつながって広く活動ができた。	
	ウ	市民活動団体と事業者との協働事業、各主体とUMECOとの協働事業について、目標値に達した。	
	エ	神奈川県との共催で、事業者や大学等と関わるきっかけを作った。	
	オ	新たに県との協働事業を実施できた。	
	カ	企業・NPO・大学とのつながりのきっかけを作ったことは評価できる。今後につなげてほしい。	
	キ	企業と大学とを繋げるきっかけ作りを構築した点は評価できる。	
	ク	神奈川県の協力を得て、企業・NPO・大学パートナーシップ支援事業に効果的に取り組むことができた。	
課題	ケ	全体を通じて、ほぼ前年並みの参加者に来場してもらえており、事業の周知が図られているものと思われる。	資料3 No. 5, 6 地域活動団体ネットワーク形成事業について、実施内容や参加団体に偏りがあるため、 本来の目的を達成しているとは評価できない 。UMECOが主体となって 積極的に 地域の課題を把握し、ネットワーク事業を展開することに力を注いでいただきたい。
	コ	事業者や地域活動団体と市民活動団体のマッチングについては、より多様な分野や団体、協働相手を探していただきたい。	
	サ	地域の課題解決とあるが、まずは地域の課題を把握することが必要ではないか。地域の行事の出し物だけが課題ではないと感じる。	
	シ	地域毎の課題抽出を行い、その課題解決に対する取組みとしては改善の余地が多分にある。	
	ス	地域活動団体ネットワーク形成事業は、限られた市民活動団体の発表が主となっており、地域活性化、課題解決へと結び付けるといった本来の目的とずれていると思われる。本事業の趣旨に沿って実施するため、より幅広い視点を持ってマッチングに取り組む必要がある。	
	セ	地域活動団体ネットワーク事業については目標値に達しておらず、参加活動団体に偏りがある。依頼に対して団体を紹介することだけでなく、UMECOが主体となってネットワーク事業を展開することに力を注いでいただきたい。	

課題	ソ	7. 「地域活動団体ネットワーク形成事業」で相談者側からの指定でも、「前日も活動を依頼しているの。」などスタッフが相談を受けている時点で説明をしながら、他の団体を紹介するなどできればよいと思う。また、特定の団体への依頼が多くなり、団体への負担度が長い目で見ると負担をかけていることにつながってしまうと思われる。相談者側からの指定があるということだが、依頼の相談があった時点で「前日も活動を依頼しているため、お願いをしづらい。」などスタッフが説明をして、他団体を紹介できれば良いのかと思う。	資料3 No. 7 地域や事業者と市民活動団体をマッチングする際には、 より幅広い視点を持って 、新たなつながりを積極的に構築していただきたい。
	タ	多くの事業を行い、団体にとっての出会いの場であることをPRすべき。	
	チ	うきうき交流サロン等、参加者数が一定なのは固定化しているのではないか。(定員か)	

④学習・体験機能【3.5点(4点:4人、3点:5人、2点:1人)】

区分	項番	第三者評価シート等の意見	評価文案	
成果	ア	多くの事業を継続して実施しており、きっかけの場が充実している。	若者を対象としたものを含め、多岐にわたるきっかけづくりのメニューがあり、特に市民活動出張講座では多くの参加者を得ている。	
	イ	きっかけづくりのメニューとしては、対象者・講座内容とも多岐に亘っており、幅広い選択肢を提供できるようにしている点は好ましい。		
	ウ	特に若者を対象にした市民活動の周知やボランティア体験機会の提供に努めているとうかがえる。		
	エ	参加者が楽しくボランティア活動を行い、目標を達成できた。		
	オ	市民活動出張講座については、3つの目標値とも大幅に上回って達成した。		
課題	カ	特に参加者が少ないものについて、団体や学生のニーズに沿っていないのか、PR不足なのかといった理由を分析し、対応を検討する必要がある。	目標値に達していない事業が散見される。要因を分析し、利用者目線に立った広報手段、開催日時、学習テーマ等を再検討し、訴求力を高める必要がある。	
	キ	参加者が少ないことについては、対策を検討していただきたい。		
	ク	参加者数が達成率として100%未達はPR不足と考える。自治会連絡網を活用したらよい。		
	ケ	参加者の固定化や高齢化に対処するため、開催時間や学習テーマの再検討、講師の選定にあたっての工夫・配慮が求められる。		
	コ	参加者数、イベント数が目標に達していない事業が散見される。その要因について分析し、広報手段、開催曜日・時間帯などを再検討し、充実化を図る必要がある。とくに男女共同参画関連の参加者数が目標を下回っており、事業内容を含めて再検討の必要がある。		
	サ	夏の酷暑やゲリラ豪雨といった天候に大きく左右される屋外イベントは、開催時期や場所の見直しを検討してほしい。		
	シ	市民活動入門講座については開催時間の検討を行うなど、利用者目線に立った開始時間等、訴求力を高める必要がある。		
	ス	エアポートについて、目標値をイベント数とするもの良いが、参加者数も知りたい。今度の活動方法について、再考するべきと思う。		資料3 No. 8 指標の精査を行うとともに、アンケートの活用等により、各種講座等が市民のニーズに合っているか、その後の市民活動につながっているか等、 現状把握をより詳細に行っていただきたい。
	セ	「夏休みボランティア」体験者の中で、「ボランティア出前講座」がきっかけで参加した参加者数を把握すべき(アンケート等で)。それが出前講座の成果となるのではないか。		
	ソ	市民活動出張講座について、この講座を受けたあと、実際の行動につながっているのかを調査することはできないだろうか。		

⑤交流・コーディネート機能【3.5点（4点：5人、3点：5人）】

区分	項番	第三者評価シート等の意見	評価文案
成果	ア	交流会において多くのつながりをコーディネートでき、参加者数が目標値を超えて大きく増えた事業もあった。	高校生との連携など、各事業に工夫を凝らし活発な交流を図っており、安定した参加者数を確保できている。
	イ	世代を越えた交流が展開できた。	
	ウ	多くの交流ができて、お互いの団体の活動内容を知ることができた。	
	エ	UMECOスタッフの工夫により「交流」がより活発に図られていると思う。	
	オ	各事業について、おおむね目標値に達している。	
	カ	交流事業については、回を重ねる中で安定した参加者を確保することができており、中には目標値を大きく上回るものも見受けられた。	
	キ	まちづくり交流会については、高校生と連携しながら開催するなど、新たな試みに挑戦している。	
課題	ク	まちづくり交流会について、高校生とのコラボを新たに始めたことは特筆できる。	各交流会の事業目的や実施内容を精査し、効果を検証するとともに、事業の統廃合も視野に入れた見直しを検討していただきたい。
	ケ	それぞれの事業の継続（工夫）・統合など検討する必要があると思われる。	
	コ	さまざまな事業の課題を解決する必要がある。	
	サ	交流会については、それぞれの事業の目的を精査し、その目的に沿った実施内容を検討する必要がある。	
	シ	交流することによるメリットが伝わってこない。	
	ス	「声の万華鏡」は一事業としたほうがよいと思う。「まちづくり交流会」事業はなくすか、本来の目的である「新たなテーマを設定し、新事業を展開する」に特化した事業にすべきと考える。またそこから新事業が生まれればそれを新事業とすればよい。	
	セ	UMECO祭りについては、各回のコンセプトが抽象的なため、サブテーマのようなものを設定することで回によって特色を出し、マンネリ化を防止するような取り組みに期待したい。	
ソ	UMECO祭り、交流会とも、運営的に安定しているようにみえるが、主催団体への負担が過度にならないようにしないと、負担感が増して継続が難しくなる恐れがある。	各イベントの運営は安定していると思われる。マンネリ化対策、団体の負担軽減等、今後の工夫と継続に期待したい。	

⑥情報の集約・発信機能【3.3点（4点：3人、3点：7人）】

区分	項番	第三者評価シート等の意見	評価文案
成果	ア	多様な媒体を活用した情報発信等を実施できている。	さまざまな媒体を活用し、UMECOや市民活動の情報を発信できている。
	イ	UMECOや市民活動の情報をさまざまな方法で発信できている。	
	ウ	多様な広報媒体を活用して、さまざまな機会を通じて情報発信を行っている。	
	エ	各事業について、おおむね目標値に達している。	
課題	オ	事業の効果を検証するため、指標を設定すべき。	全ての事業で指標を設定するとともに、参加者からの意見等を積極的に集約し、結果を分析した上で、より効果的な情報発信に取り組んでいただきたい。
	カ	ホームページやフェイスブックなどの更新回数の指標を設定してほしい。	
	キ	指標が設定されていない事業があるため、改善していただきたい。	
	ク	参加者からの意見や感想の集約を積極的に行い、ニーズの傾向を把握、分析した上でより効果的な情報発信に取り組む必要がある。	
	ケ	若年層へのPRや費用対効果の観点からも、広報紙を郵送だけでなくメールによる配信を追加する等、より積極的にインターネットを活用していただきたい。	
	コ	もう少し企業や学校等にも幅広くアピールし、有効活用してもらえると良い。	
	サ	メールマガジンなど、UMECOの側から積極的に情報発信を行う手法を検討していただきたい。	
	シ	メール・インターネットを活用し情報を発信すべき。	
	ス	自治会（地域）として各地区に情報が伝わっていないと考える。	
セ	市民活動への若年層参画の観点からは、今以上にSNS等の有効活用が必要である。		

(2) その他

①男女共同参画【3.0点（4点：1人、3点：8人、2点：1人）】

区分	項番	第三者評価シート等の意見	評価文案
成果	ア	事業を継続している。	資料3 No. 10~13 市と連携して事業を継続している。今後、行政への協力を強化するだけでなく、UMECOにおいてもニーズ調査や議題の選定等に主体的に取り組む、集客につなげていただきたい。
	イ	市と連携して男女共同参画に関する事業に取り組んでいる。	
要望	ウ	重要な事業である。	
課題	エ	関連団体等へのニーズ調査を行い行政と情報を共有するなど、積極的に関わるべき。	
	オ	より多くの参加者が得られるよう努めるべき。	
	カ	参画（出席）していないが、議題の選定に課題があると思われる。	
	キ	市との協働事業としての講座に参加者6名はいかがなものか。人権・男女共同参画課への協力をもっと強化すべき。	
	ク	参加者は減少傾向にある為、訴求力の高い講演内容等、集客の工夫が必要である。	
	ケ	「旧女性プラザ」の活動は、UMECOの基本的活動の一つであると認識しており、市から提供される事業だけでなく、主体的な事業実施に取り組んでほしい。	

②国際交流【2.9点（4点：1人、3点：7人、2点：2人）】

区分	項番	第三者評価シート等の意見	評価文案
成果	ア	わくわく交流会で「国際交流」を取り上げた。	資料3 No. 14~16 一定の事業を継続している。現行の展示スペースをさらに活用したり、他事業においてこの分野をテーマとして取り上げるなど、今後の積極的、継続的な取組に期待する。
	イ	交流会が継続している。	
	ウ	駅近くの公共施設ということで多くの外国人の来訪を受ける中、インバウンド対応として、積極的にコミュニケーションをとるように努めている。	
要望	エ	トイレ前廊下の国際色豊かな掲示がよい。つながりのきっかけになる工夫ができればよい。	
課題	オ	ティーサロン等、他事業においてもテーマとして取り上げていただきたい。	
	カ	積極的に取り上げていただきたい。	
	キ	「旧国際交流ラウンジ」の活動は、UMECOの基本的活動の一つであると認識しており、より積極的にラウンジ機能の強化に努めてほしい。	
	ク	参加団体数に比べ参加者数が少ない。集客のための工夫が欲しい。	
	ケ	団体の課題を解決していくべき。	
	コ	もう少し事業を深めることができるのではないかな。	

II コンセプトの達成状況

①誰でも気軽に つながりを生み出すきっかけの場【3.6点（4点：6人、3点：4人）】

区分	項番	第三者評価シート等の意見	評価文案
成果	ア	多くの事業を実施したことで、市民活動を始めるきっかけの場として十分な役割を果たしていると考えられる。	多彩な事業を通じ、幅広い活動の場を提供できており、市民活動を始めるきっかけの場として十分な役割を果たしている。
	イ	年代や立場を越えたさまざまな事業展開がされており、誰でも気軽に参加できる場を提供している。	
	ウ	さまざまな事業を実施し、市民と団体がつながり、良い社会づくりをしている。	
	エ	多彩な事業を通して「きっかけの場」づくりが行われており、その拠点としてUMECOが重要な場となっている。	
	オ	多くの事業を実施している。	
	カ	一生懸命努力が感じられる。	
	キ	さまざまな切り口からアプローチできるよう、幅広い活動の場を提供し、市民活動を始めるきっかけづくりに取り組んでいる。	

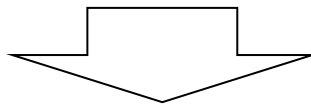
課題	ク	全ての事業を今後も継続すべきかは検討する必要がある。参加者の意見を聴取するとともに、市民活動団体を社会貢献活動に結び付けるという観点から、事業の見直しを行っていただきたい。	資料3 No. 17 UMECO全体の事業がこのコンセプトに偏っている 傾向 がある。「きっかけ」を「行動」、「実現」につなげていくという視点から事業のバランスを見直していただきたい。
	ケ	よりよいきっかけやつながりを生み出すように、重要な事業を検討していただきたい。	
	コ	「きっかけの場」は市民活動に関わる第一ステージとして重要だが、UMECO全体の事業がこの場に集中しているきらいがある。きっかけを「行動の場」、「実現の場」につなげていくという視点から事業を再検討していただきたい。	
	サ	市民活動に関わっていない人へのきっかけとして、より多くの市民に興味をもってもらえるような企画になっていくことを希望する。そのためには、事業の内容の精査が必要ではないか。	資料3 No. 18 事業の見直しにあたっては、参加者の意見集約 結果にもとづき 、実施内容の改善までのサイクルの確立、事業の対象に応じた広報媒体の選定、異世代交流の促進等、さまざまな工夫が必要である。
	シ	高齢者には同世代の団体を、という紹介だけでなく、興味・特技を活かせる若い方主流の世代の団体も積極的につなげてほしい。シニア世代の活躍を求める団体も多い。逆も然り、若い方にもシニア世代の団体を。異世代交流のきっかけづくりを実施していただきたい。	
	ス	情報発信については、伝えたい対象者によって活用するメディアを変えたり、複数のメディアを同時に活用したりするなど、さまざまな工夫をしてほしい。	
	セ	それぞれの事業の内容が、これまで市民活動に参加してこなかった方へどのように受け止められているか、また、参加された方がどのような感想を持ったのか、それらを集約・分析して、どう改善していくかというサイクルを確立する必要がある。	
ソ	情報発信での工夫や新たに市民活動を開始するためのニーズ喚起に重点を置いた取組み強化の必要がある。		

②シェアしながら それぞれの思いが繋がる行動の場【3.4点（4点：4人、3点：6人）】

区分	項番	第三者評価シート等の意見	評価文案
成果	ア	各種の団体等のまとめをしている。	団体間の交流を通じ、参加者相互の学びの場として機能するとともに、今後の活動における連携・協力が期待できる。
	イ	団体の活動情報を広く知らせることができた。	
	ウ	多様な主体間での連携に取り組み始めており、今後の発展に期待ができる。	
課題	エ	団体間の交流を通じ、参加者相互の学びの場として機能するとともに、今後の相互の活動において連携・協力が図られる可能性が期待できる。	資料3 No. 19 取組に あたり 、事業実施時には団体間の交流の意義を明確にするとともに、実施後には聴取した意見等をもとに事業内容を見直し、より発展的な連携の構築や参加者増を図っていただきたい。
	オ	特に、地域活動団体、事業者、NPO法人との連携については、積極的に推進していただきたい。	
	カ	類似・関連分野の団体の交流を推進する際、地域活動団体、事業者の積極的参加を促すような取組みに期待したい。	
	キ	分野ごとの団体の交流を推進していただき、交流の先を意識した行動の場となる団体同士のかかわりや思いの共有に期待したい。	
	ク	さまざまな分野の情報交換を実施すべき。	
	ケ	団体の思いを共有し、それらをつなげ、活動を広げるという視点で、各事業の目的をより明確にして実施していただきたい。	
	コ	交流することで生まれる利点をもっとアピールしてほしい。	
サ	まちづくり交流会や新春交流会のように、内容を充実させて参加者増となったものがある一方、わくわく交流会では、参加者数が前年を大きく下回っている。		
シ	参加団体・参加者にとって、どういう内容であれば参加しやすいか、興味を惹かれるかということを、参加者の意見を参考にしながら、事業内容の見直しを図る必要がある。		
要望	ス	分野ごとの団体の交流の場「わくわく交流会」の充実もさることながら、違う分野の団体（競合しない）が、一つの目的に向かって協力する場（「まちづくり交流会」になるか）は、より発展性があると考えます。そうした異分野団体連携のコーディネートを期待する。	

③地域の課題を解決する 行動を社会貢献につなげる実現の場【3.1点（4点：1人、3点：9人）】

区分	項番	第三者評価シート等の意見	評価文案
成果	ア	人間関係を育む場であり、よい社会につながると考えられる。	継続的に、地域活動団体と市民活動団体を中心としたマッチングを進めてきており、UMECOの活動として定着し、ネットワークを構築している。
	イ	UMECOが地域に認知され、地域活動団体ネットワーク形成事業を継続して実施した。	
	ウ	多様な主体との協働事業を通し連携を図り、地域課題解決に向けた取り組み姿勢がうかがえる。	
	エ	徐々に地域活動団体とのつながりが見えてきていることは、評価できる。	
	オ	継続的に市民活動団体と地域活動団体とのマッチングを進めてきており、UMECOの活動として定着し、団体相互から認知されてきている。	
課題	カ	受け手となる市民活動団体が極めて限られており、内容もレクリエーション（慰問）がほとんどとなっている。	現状では、限られた団体しか参加していない。地域の課題を幅広く把握し、それを解決するという視点をもって、行政等さまざまな主体と連携しながら事業に取り組んでいただきたい。
	キ	現状では、事業に参加している団体や分野が限定されている。このコンセプトの実現に向け、地域の課題を幅広く把握し、それらの解決に向けた事業の実施に努めていただきたい。	
	ク	地域の課題把握が喫緊の課題であり、早急に対応を検討する必要がある。	
	ケ	今後は、地域活動団体と連携を図りながら、地域の課題発掘と解決に向けたアプローチについても取り組んでほしい。	
	コ	まだ多くの課題があり、よりコンセプトの実現を目指していただきたい。	
	サ	事業や団体の交流における問題を抽出し、サポートしていただきたい。	
	シ	「市民交流センター」としてのUMECOが「地域課題の共有、解決の拠点」として認識され、その機能を果たすよう取り組んでいただきたい。	
	ス	UMECO開設から3年。「きっかけの場」、「行動の場」をコンセプトにした事業は定着してきている。そこから見えてきた課題、市が把握している課題をお互い共有し、解決へ向けての事業へ発展することに期待する。	
	セ	「行動を社会貢献につなげる」という点では問題はないが、「地域の課題を解決する」というもう一つの柱からのアプローチがほとんど見受けられない。	
	ソ	常にPDCAを行い、常に最適なソリューションを提供できる環境づくりが必要。	
タ	事業全般に共通することだが、実施にあたっては、その効果を検証できるように、指標を精査するとともに、アンケート等により利用者の意見を得られるよう留意していただきたい。		



Ⅲ まとめ

資料3 No. 21

多くの事業を継続して実施しており、特に多様な主体間での連携に取り組み始めていることなど、**機能面では**一定の成果を上げていると評価できる。

しかし、UMECO全体の事業が「きっかけの場」としてのものに偏っていること、参加している団体や分野が限定されていることなどの課題がある。

今後は、UMECOが最終的に社会貢献の「実現の場」を目指していることを改めて意識していただき、地域の課題をより幅広く積極的に把握し、解決に向けた事業に取り組まれることを望む。

なお、事業の実施にあたっては、アンケート等を活用し、その効果を客観的に検証していただきたい。